

2002年9月16日：西表島大富林道。水道施設のある湯所に着くとこれ以上先には車が入れないように鎖が張られている。できるだけ木陰となるような場所に車を置いてひたすら徒歩で先へと進む。ツマムラサキマダラのみがまずまずの新鮮度でセンダングサの蜜を吸っている。リュウキュウアサギマダラに混



Sep. 16, 2002 西表島大富林道

じって、薄青色がなくてやや褐色が目立つ小さめのマダラチョウもいるのでネットインすると迷蝶ヒメアサギマダラである。リュウアサに比べるとはるかに少ないが複数の個体を見る。この林道は路面近くを青色の濃いタイプのミカドアゲハが敏捷に飛び交い、ときおり黄色タイプのメスもみる。また、ヤエヤマイチモンジやジャコウアゲハ八重山諸島産亜種も多く、ときおり濃い赤桃色紋があでやかなベニモンアゲハも現われる。

2002年9月16日：西表島月が浜。高那地区でのマルバネルリマダラへの期待が裏切られて、次の目標は月が浜の台湾キマダラとなる。問題は発生時期と、どちらかといえば早朝の時間帯に活動する習性のチョウであることだが、ここがそのポイントといって車をとめた矢先、路傍のセンダングサを訪れた台湾キマダラが目に入る。ときおりベニモンアゲハも特徴のある飛翔で林のどこからともなく現れ、目の前を忙しい羽ばたきで横切ってゆく。よく似たジャコウアゲハの飛翔がゆったりとしているだけに、余計に、なぜそんなに急ぐのかね、と聞いてみたくなる。この月が浜でもヒメアサギマダラを複数みる。



Sep. 16, 2002
西表島月が浜

2003年10月31日：波照間島。大きな貯水槽の左手から入り込める防風林沿いのブッシュは7年前にくらべてやや貧相となつてはいるが、シロノセンダングサがいくらか花を咲かせており、遠目にもナミエシロチョウが群れて遊んでいるのがわかり、自転車を進めて分け入ってみる。前翅端の黒が目立ち、裏面黄色が濃い個体はナミエシロチョウのメスでけっこう新鮮な個体が多い。日差しをさけるかのように陰となった林縁部分のセンダングサにこだわるのはリュウキュウアサギマダラ。やや小型でアサギ色がうすい個体は、近年八重山諸島で定着範囲を広げているヒメアサギマダラだと思われネットインして確認する。まちがいなくヒメアサギマダラのオスである。この群れの中にカワカミシロチョウは含まれていないようだ。シロオビアゲハもやってくるがⅡ型♀はこない。